

むずかしい漢字とことば

西之表(にし・の・おもて)

込(こ)め

指南役(し・なん・やく) = 武術・芸能などを教え示す人。指導者。

宮中行事(きゅう・ちゅう・ぎょう・じ) = 天皇が、国が平和で栄えるよう願っておこなう行事。

払(はら)い 離(はな)れた 狙(ねら)う

満(み)つれば欠(か)くる = 満月のあとは必ず欠けるように、物事は盛りに達すれば必ずおとろえはじめるというたとえ。

戒(いまし)め = あやまちのないように、前もってする注意や警告。

榕城(よう・じょう) 風邪(か・ぜ)

西之表市 栖林神社 平安願い大的始式



儀礼にのっとり矢を放つ射手
= 11日夜、西之表市の栖林神社

西之表市の栖林神社で11日夜、室町時代から500年以上続く県無形民俗文化財「大的始式」があった。射手6人が種子島の平安や無病息災の願いを込め、36本の矢を放った。

島主の種子島家が招いた弓術指南役が、1501年に宮中行事を伝えたのが始まりとされる。射手は弓で天地を払い、28層離れた直径175メートルの的を狙う。35本を射た後は「満つれば欠

く」の戒めに従い、最後の1射はわざと外した。大的始式の風に当たると病気をしないとの言い伝えがある。父が射手を務めた榕城小学校5年の山下悠真さんは「生き生きしてかつこよかった。矢の風を感じられたので、今年は風邪をひかず元気にすごしたい」と話した。

2025年1月13日付11面

【問1】 「大的始式」は、どこであったのでしょうか。

【問2】 「大的始式」は、いつの時代から何年以上続いているのでしょうか。

【問3】 「大的始式」は、射手がどんな願いを込めて矢を放つのでしょうか。

【問4】 「大的始式」の始まりとされるのはどんなことでしょうか。

【調べてみよう】 身近な地域の伝統行事について調べてみよう。

